

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》 澤田篤史 泉唯史

【概要】

呼吸器疾患、循環器疾患、代謝障害系疾患など内部障害系疾患の基礎的病理や疾患概念、さらにそれらの疾患に罹患した対象者の障害像を理解する。また、内部障害系の各種疾患における理学療法評価と障害に対するリハビリテーションアプローチを学習する。

【学習目標】

一般目標

内部障害を構成する疾患・障害について各々の具体的特徴とその理学療法評価、アプローチ、リスクマネジメントを理解する。

行動目標

1. 循環器疾患・障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。
2. 呼吸器疾患・障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。
3. 代謝疾患・障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。
4. 腎疾患・障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。
5. がんリハビリテーションの目的と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	確認テスト 糖尿病の病態と理学療法の目的	・糖尿病、腎疾患、がんの理解に必要な基本的知識の確認テスト ・糖尿病の病態と理学療法の目的・方針 ・急性合併症と慢性合併症、リスク管理	澤田篤史
2	糖尿病に対する理学療法	・糖尿病に対する運動療法の効果 ・運動療法の適応・禁忌	澤田篤史
3	腎疾患に対する理学療法	・慢性腎不全の病態と理学療法の目的 ・透析療法とその合併症 ・腎臓リハビリテーションの適応・効果・禁忌	澤田篤史
4	がんリハビリテーション総論	・がんの疫学と病態 ・がんリハビリテーションの目的と理学療法アプローチ	澤田篤史
5	疾患別がんリハビリテーション	・乳がんに対する理学療法 ・終末期がん患者への関わりと緩和ケアチーム内での理学療法士の役割	澤田篤史
6	確認テスト 呼吸機能障害に対する理学療法の意義	・呼吸器疾患、循環器疾患の理解に必要な基本的知識の確認テスト ・呼吸リハビリテーションの目的 ・正常呼吸機能と呼吸機能不全	澤田篤史
7	呼吸器系疾患の症候学	・COPDによる呼吸不全の病態生理	澤田篤史
8	呼吸器系疾患の症候学	・COPDに対する理学療法評価 ・COPDに対するリハビリテーション・アプローチ	澤田篤史
9	呼吸器系疾患の症候学	・肺炎による呼吸不全の病態生理 ・肺炎に対する理学療法評価 ・肺炎に対するリハビリテーション・アプローチ	澤田篤史
10	呼吸器系疾患の症候学	・開胸・開腹術後の急性呼吸不全 ・急性呼吸不全に対するリハビリテーション・アプローチ	澤田篤史
11	循環器系の構造と機能 循環器疾患の病態	・循環器系の構造と機能、酸素搬送系の理解と確認 ・心疾患（虚血性心疾患および心不全を中心に）の病態生理	泉唯史
12	心疾患の病態評価	・画像検査、機能検査、生化学検査の理解と解釈	泉唯史

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
13	心疾患の病態評価	・心電図の理解と解釈	泉唯史
14	心疾患の病態評価	・心肺運動負荷試験の理論と解釈	泉唯史
15	急性期および回復期の心臓リハビリテーション	・急性期の心臓リハビリテーション ・回復期以降の心臓リハビリテーション ・予防医学的観点からのアプローチ	泉唯史

【評価方法】

定期試験（オンライン）90% 授業内確認テスト10%

小テストは返却し、正答を提示する。

定期試験は返却しないが、個別での問い合わせに対しフィードバックを行う。

【備考】

教科書：細田多穂 監修 「内部障害理学療法学テキスト（改定第3版）」 南江堂
大八木秀和 著 「心電図を見るとドキドキする人のためのモニター心電図レッスン」 医学書院

参考書：木全心一 監修 「狭心症・心筋梗塞のリハビリテーション」 南江堂 2009年
増田卓 他 編 「循環器理学療法の理論と技術」 メディカルビュー社 2009年
千住秀明 他 監修 「呼吸理学療法標準手技」 医学書院 2008年
高橋仁美 他 著 「動画でわかる呼吸リハビリテーション 第2版」 中山書店 2006年
石川朗 総編集 「内部障害理学療法学 呼吸（15レクチャーシリーズ）」 中山書店 2010年
齋田幸久 著 「胸部X線写真ベスト・テクニック肺を立体で見る」 医学書院 2013年
古川順光 編集 「内部障害に対する運動療法 基礎から臨床実践まで」 MEDICAL VIEW 2018年
医療情報科学研究所 編集 「病気がみえる 循環器 第3版」 メディックメディア 2014年
医療情報科学研究所 編集 「病気がみえる 糖尿病・代謝・内分泌 第4版」 メディックメディア 2014年
医療情報科学研究所 編集 「病気がみえる 呼吸器 第2版」 メディックメディア 2014年
医療情報科学研究所 編集 「病気がみえる 腎・泌尿器 第2版」 メディックメディア 2014年
日本リハビリテーション医学会がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会 「がんのリハビリテーションガイドライン」 金原出版 2013年
宮越浩一 編 「がん患者のリハビリテーション-リスク管理とゴール設定」 メジカルビュー社 2013年
荒金英樹 編 「悪液質とサルコペニア リハビリテーション栄養アプローチ」 医歯薬出版 2014年
美津島隆 編 「内部障害リハのための胸部・腹部画像読影のすすめ」 MEDICAL VIEW 2017年
安部能成 編集 「終末期リハビリテーションの臨床アプローチ」 MEDICAL VIEW 2016年
鈴木啓介 編 「リハスタッフのためのイチからわかる臨床検査値活用術」 MEDICAL VIEW 2018年
飯田有輝 編 「早期リハビリテーションの実践 予後改善のためのアプローチ」 MEDICAL VIEW 2018年

【学習の準備】

1. この授業は、2年生までの解剖学、生理学、運動学、運動生理学、内科学、病理学などを基盤に行われるものであり、学習の準備としては毎回の授業に合わせて十分復習をしてから講義に臨むこと（80分）。
2. 授業内で行われる確認テストは、上記1)の範囲から出題するので、十分な自己学習を行うこと（80分）。
3. 復習は授業資料だけではなく、教科書や参考書を活用して毎回の授業に関連する内容を十分理解すること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

澤田篤史（理学療法士）、泉唯史（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

内部障害領域での理学療法士としての実務経験を通して得た知識・技術等を活用し、実践的な教育を行う。